

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p><研究課題名> 多発性骨髄腫のアウトカムに関する探索的研究</p>
<p><研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 血液膠原病内科（研究責任者） 入山 規良</p>
<p><研究期間> 承認日 ～ 西暦 2021年 4月 30日</p>
<p><研究の目的と意義> 多発性骨髄腫は近年導入された新規治療薬により、予後が劇的に改善していることが知られています。しかしながら、治療の進歩とともに解決されるべき課題が残されています。 まず、日常診療で遭遇するような臓器障害が認められる患者において、新規治療薬を使用した場合と従来の化学療法で治療された場合の予後の改善効果、また新規治療薬の適切な用量調節と予後に与える影響は現時点では明らかにされていません。次に、化学療法で治療された患者と新規治療薬で治療された患者間では、予後因子が異なると考えられています。過去の予後を推定する因子が現在でも機能するのかが明らかでない点も多く残されています。さらに、近年は多発性骨髄腫という疾患が多様な分子学的異常の背景により発症していることが知られるようになりましたが、未だに疾患発生や進展の病態は明らかになってはいません。 この研究において我々は、当院において治療された患者の診療で得られるパラメーターや骨髄腫細胞の分析結果を解析することにより、新規治療時代の実診療における適切な治療戦略と予後因子の解明とを立案しました。この研究の成果は多発性骨髄腫の層別化治療や新たな治療戦略に発展すると期待されます。</p>
<p><利用する試料・情報の項目> 本研究は日本大学医学部附属板橋病院血液膠原病内科において診療を受けた多発性骨髄腫患者の臨床データを用いて行う研究です。</p>
<p><対象となる患者さん> 本研究の対象患者の期間:西暦 1998年 4月 1日 ～ 西暦 2018年 4月 30日 の間に多発性骨髄腫と診断され、当院で診療を受けている方</p>
<p><研究の方法> 該当する症例の診療録において、多発性骨髄腫の疾患特性(血液・尿検査結果、画像検査および骨髄腫細胞の細胞遺伝学的・免疫学的プロファイル)と臨床像の関連性、および予後との相関関係を調査します。個人情報は厳密に管理され、個人が同定され得るデータは施設から出ることはありません。</p>

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

血液膠原病内科

氏名:入山 規良

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2404 (PHS)8727

日本大学医学部附属板橋病院(ver.1705)